

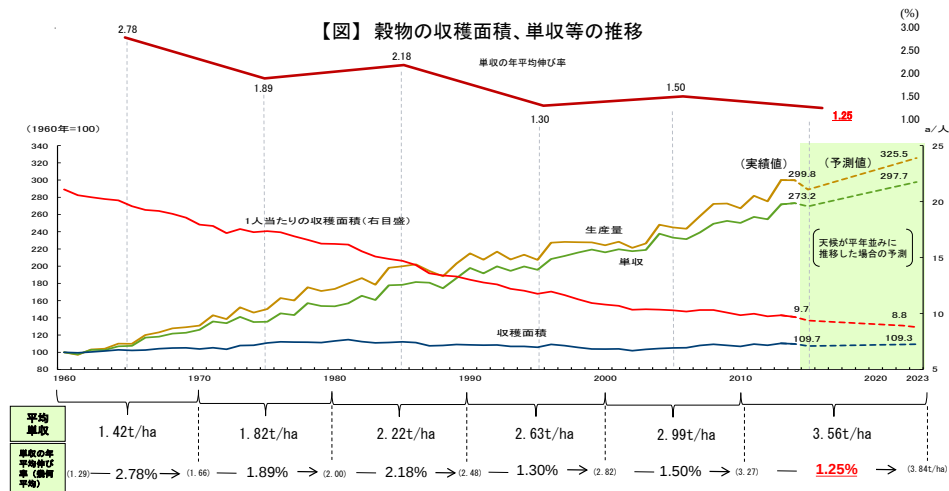
「国際的な食料需給の動向と我が国の食料供給への影響」正誤表

正

10月公表
12ページ

I-6 穀物の収穫面積が横ばいの中、単収の伸び率は鈍化

- 生産量の増加は、これまで単収の向上に支えられてきたが、近年、単収の伸び率は鈍化。
- 長期的には、単収は遺伝子組換え作物導入などで一定の伸びが期待されているが、地球温暖化、水資源の制約、土壌劣化などが不安要素。



資料：USDA「PS&D (2014.9)」、国連「World Population Prospects: The 2012 Revision」、農林水産政策研究所「2023年における世界の食料需給見通し」により農林水産省で作成。

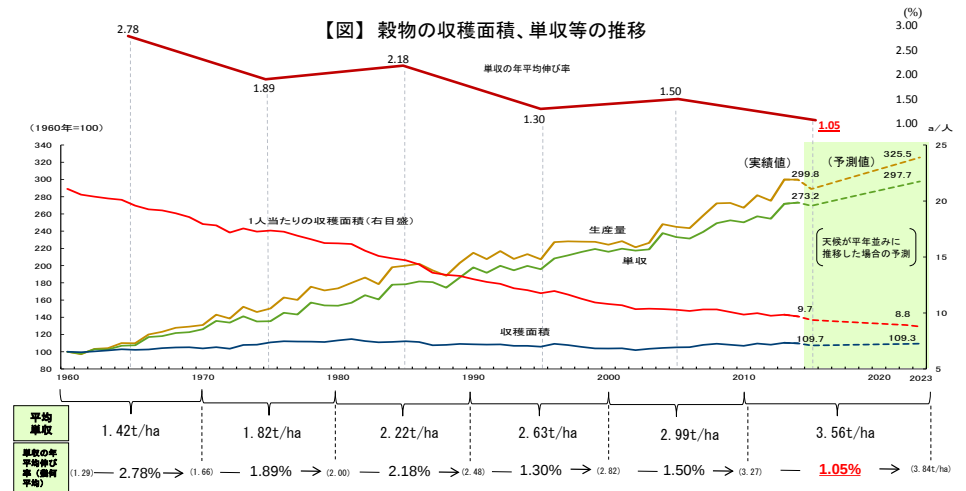
12

誤

10月公表
12ページ

I-6 穀物の収穫面積が横ばいの中、単収の伸び率は鈍化

- 生産量の増加は、これまで単収の向上に支えられてきたが、近年、単収の伸び率は鈍化。
- 長期的には、単収は遺伝子組換え作物導入などで一定の伸びが期待されているが、地球温暖化、水資源の制約、土壌劣化などが不安要素。



資料：USDA「PS&D (2014.9)」、国連「World Population Prospects: The 2012 Revision」、農林水産政策研究所「2023年における世界の食料需給見通し」により農林水産省で作成。

12